

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：水資源対策費

事業名 水循環対策推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

都市建築部 水資源課 水資源係 電話番号：058-272-1111(内4852)

E-mail：c11668@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,831 千円 (前年度予算額： 6,777 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,777	0	0	0	0	0	0	0	6,777
要求額	6,831	0	0	0	0	0	0	0	6,831
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・水は、蒸発、降下、流下又は浸透により、海域等に至る過程で地表水又は地下水として河川の流域を中心に循環している。
- ・水循環の中の一つである地下水は、これまでの検討結果により、大きな問題は無く、現在は健全な水循環が維持されていると判断されている。将来に渡って健全な水循環を維持するため、水循環に関する調査検討を行う。

(2) 事業内容

- ・平成28年度に実施した水循環解析では、農業用地下水の季節変動が反映されていない等、精度が高くないという課題があった。
- ・これを受けて、令和元～2年度に農業用地下水揚水量等を調査し、農業用水特有の季節変動を把握し、これらを用いて令和3～4年度に水循環解析を更新した。併せて各市町村ごとの「地下水の概要」も最新の情報に更新・作成した。
- ・令和5年度は「地下水の概要」の説明会を圏域ごとに実施するほか、前出の水循環解析結果にリスク管理の考えを導入し、木曽川・庄内川流域において渇水・地震・浸水害等における水循環解析や、各リスクが地下水に及ぼす影響の検討等を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県10/10

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	39	地下水の概要説明 講師（大学教授相当）謝礼金。5回分
旅費	75	地下水の概要説明（講師費用弁償、職員旅費）5回分
需用費	12	消耗品購入費
役務費	12	郵便料等
委託料	6,693	水循環解析調査委託費
合計	6,831	

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 水循環基本法、水循環基本計画
- ・ 岐阜県水資源長期需給計画
- ・ 岐阜県における地盤沈下防止のための地下水保全指針

(2) 国・他県の状況

- ・ H26に「水循環基本法」が制定され、地方公共団体は「流域水循環協議会」の設置に努めること、同協議会は「流域水循環計画」を策定し、健全な水循環の維持又は回復のための施策を柔軟かつ段階的に推進するよう努めることとされた。
- ・ H27に「水循環基本計画」が策定され、地方公共団体は、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、地域特性に応じた施策を策定し実施する責務を有するとされた。
- ・ H29に国土審議会が「リスク管理型の水の安定供給に向けた水資源開発基本計画のあり方」を国交大臣に答申した。これに基づき、各水系でリスク管理の検討が進められている。
- ・ H30より、国土交通省からの交付金配分に当たっての事業横断的な配慮事項の対象として、「流域水循環計画」に基づき実施される事業を含む整備事業が新たに位置づけられることとなった。

(3) 後年度の財政負担

- ・ 令和6年度 飛騨川流域等のリスク時の水循環解析の実施、地下水の有効活用の検討等
- ・ 令和7～9年度 農業用・水産用地下水等の調査、水循環解析の更新等

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・ 地下水に関するモデル解析の実績のある民間コンサルタントに委託する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・県全域の水循環解析（水収支解析、地下水解析）を行い、各地域の水循環の状況を明らかとする。
- ・地下水の概要を更新し、市町村との情報共有を行う。
- ・水循環の状況を把握し、地下水の有効利用と保全の両立を図り、これらの結果を踏まえて啓蒙活動を行うことで、県民の意識向上と水資源の保全につなげる。
- ・災害時のリスク管理の観点から、渇水時を含む災害時の水循環解析を実施し、想定される被害の把握、対応等について検討する。
- ・5年毎に農業等の地下水揚水実績調査を行い、それを基に地下水解析、水収支解析を実施して「地下水の概要」を更新し継続的な地下水状況の把握に努める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標	
					達成率	
①水循環解析の更新（平常時）	—	20	22	—	42	48%
②水循環解析の実施（非常時）	—	—	—	20	42	—
③「地下水の概要」の作成（市町村毎）	—	—	42	—	42	—

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地下水解析の精度向上に必要とされた岐阜・西濃圏域の農業用地下水の揚水実態調査を実施したほか、過年度調査と合わせ、全県下の農業用井戸の状況について把握した。
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度の水循環解析をベースに、令和元・2年度の農業用地下水揚水調査の成果、最新の気象データ等を反映させて、県下全域の水収支解析、岐阜・西濃圏域の20市町の地下水解析を行った。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	H28に実施した調査解析以降のデータの蓄積や最新の知見を踏まえ、より精度の高い解析を行った。今後は、地下水の確保、利活用及び災害時のリスク管理に関する現状と課題の把握等を行い、県民財産の有効活用を図る必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	前回の解析結果に新たな調査結果を追加すること等により、より精度の高い解析を実施し、地下水を含む水循環の状況を明らかにした。また、成果は施策や研究等に反映されている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	更新のたびに最新の知見や技術を加えており、効率化や精度向上等が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・水循環の状況を最新版へ更新でき、最も地下水が多い岐阜、西濃圏域で大きな問題がないことが確認できた。今後は、規制だけでなく状況を見ながら利活用を図ることも検討する必要がある。 ・県下6流域それぞれの最新状況が判明する事から、市町村等に資料提供し、流域水循環計画の策定が必要かの検討をしてもらうほか、県の災害時のリスク管理や上水等の水源多角化などの方策について関係課に働きかけを行う必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・今後も5年ごとに最新の施策・技術・データ等を反映させた水循環解析を実施し、その成果を「地下水の概要」に取りまとめて、継続的に関係部署や各市町村に提供していく。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	